

\*\*\*\*\*

## 矢板の旅

# やい！夕日

### 第一弾「桜旅」が大盛況でした。

\*\*\*\*\*

市議会が提案し商工林業観光課が主催した矢板の桜ツアーが四月十五日(日)に行われました。日光、那須塩原などの観光地に挟まれ影の薄い矢板。その矢板の隠れた魅力を実際に体験して欲しいという思いでこのツアーは企画されました。長峰公園、御前原公園、木幡神社、川崎城跡、道の駅やいたを巡るコースです。

各場所ごとに観光ボランティアガイドの説明があり、矢板が身近に感じられました。

多かつた熟年夫婦、女性グループ

参加者六十人のうち九割が市外の方でした。新聞に案内が載ったことで申し込み開始四十分余りで定員に。新聞の力凄し、桜の魅力強しと言うところでしょうか。

当日は前日と打って変わってお天気に恵まれ暖



かく、長峰の桜は三分咲き。野口雨情の碑を見たり展望台の方へ上がったり、みなさんそれぞれに広い公園を散策していました。

その後、宮永社の方々のお琴を聞き、桜茶、桜餅などをご馳走になりながら桜を愛で、何とも優雅なひと時を過ごしました。

帰る頃には桜もだいぶ開き... 御前原は五分咲きぐらいで、はしか地蔵の由来や城跡の説明を受けてから桜を楽しみました。

木幡神社は本殿と楼門が国の重要文化財に指定されています。その神社のご厚意で全員にお守りがプレゼントされました。

川崎城跡では塩谷朝業の、親子の別れの歌の解説を聞き、



ツツジのころにまたお待ちしております！

当時の人々に思いを馳せたり、歴史の重みを感じたりしながら桜を見てきました。道の駅に着くと無料ツアーのお返しとばかり、たくさん買い物をして、りんごソフトクリームを食べたりしていました。

「矢板にも良い所が一杯あるんですね」「次回につづきツアーにも是非参加したいです」の言葉が聞かれ、矢板の住民の一人としてとても嬉しく思いました。

このツアーに参加された皆さんが家の方にこの旅の感想を話すことで、矢板の良さがアピールされることを期待して、皆さんとお別れしました。(R・K)

## 【矢板の誇り】

### おらがまちの芸術家

今年二月に全日本書道教育連合会主催の第二十回記念全国書道展で最高賞の文部科学大臣奨励賞を受賞した荒井在住の書家、手塚秀櫻(幸子)さんを訪ねました。

◆子育てが一段落して始めた書道

若いころはソフトボールの選手として活躍し、登山を趣味とし、日本百名山をほとんど踏破するほどのスポーツウーマンだった手塚さん。書道を始めたのは、子育てが一段落してからだと言います。

昭和四十八年から宮崎秀嶺氏に師事し、さらに本格的に書道を学ぶには、意を新たに、平成六年から八年ほど宇都宮の書道学校に通い、日々努力を重ねてきました。

◆漢詩を学ぶために詩吟を

漢字が読めないといけな

## 自分の墨の色を出す

### 手塚秀櫻(しゅうおう)さん(荒井)

◆子育てが一段落して始めた書道

若いころはソフトボールの選手として活躍し、登山を趣味とし、日本百名山をほとんど踏破するほどのスポーツウーマンだった手塚さん。書道を始めたのは、子育てが一段落してからだと言います。

昭和四十八年から宮崎秀嶺氏に師事し、さらに本格的に書道を学ぶには、意を新たに、平成六年から八年ほど宇都宮の書道学校に通い、日々努力を重ねてきました。

◆漢詩を学ぶために詩吟を

漢字が読めないといけな



開いて地域の方々に教えてもらえないか」との依頼がありました。

他人に教えることなど自信が無いと悩んでいたところ、ご主人に「他人に教えることは、勉強になるからやってみたら」と背中を押されました。それがきっかけとなり、今では、自宅で週三回(水、木、土)教室を開いています。

◆子どもたちとのふれあい

書道教室を開いて一番楽しいことは、「子どもたちの笑顔を見ること」

一般的には、教えるとき「いろはにほへと...」と、練習しますが、「鳥なく声す夢さ

編集後記

特集の「兵庫畑の棚田」は、今年棚田オーナー制度10周年を迎えます。それを記念して、「棚田の写真コンテスト」を10月に予定しています。詳しくは次号お知らせします。

ませ...」と変わったことを教えると子どもたちは、目を丸くして聞きます。

また、気分転換に外でギャッチボールをしたりと、常に子どもたちの集中力を引き出す様々な手法を取り入れています。

現在、全日本書道教育連合会発行の書道誌「日光誌」の、中学一年生の手本も引き受けて書いており、忙しい毎日です。

◆墨の色を出すために

書家として難しいことは何かを伺ったところ、「墨の色を出すこと」という答えが返ってきました。いろいろな墨をすり合わせ、自分の納得する色を出すことが一番難しいといえます。

尾上紫舟作の「端溪(たんけい)の細かき肌の硯(いし)にふれにほひをたつる春の夜の墨」という詩がお好きだというのもうなげます。

今後の目標は、大筆で「一文字」を書くこと。「九十歳まで頑張ります」と明るく話してくれました。(Y・M)